活動レポート
発行：東京キワニスクラブ
一般社団法人
東京キワニスクラブ
ACTIVITY REPORT
Vol. 47
2025.09 発行

夏 寺子屋と地域、人々との繋がり

キワニスの寺子屋は、子どもの「居場所作り」、「様々な人的ネットワークの活用」をテーマにしています。今回はこうした観点からご紹介します。

「花を植えよう笑顔の寺子屋」としてご指導いただいている繁和会の活動に貢献するため、寺子屋の子ども達は千日紅を育ててきました。今回、同会主催の「夏のふれあい千日紅花祭り」に4名が参加し、300の苗ポットをお客様にプレゼントしました。繰り返すにつれて相手の方との会話も弾み、「最初は緊張していたけれどうまくできた」、「楽しかった。またやりたい」と子ども達。保護者の方も「とても楽しかったと言っております。いい思い出ができてよかったです」、「開口一番に『楽しかったよー』という声も聞けました」などとコメントされています。

また、7月25日、26日に行われた夏休みの寺子屋では、それぞれ74名、54名の子ども達が参加してくれました。夏休みの寺子屋はボランティアの参加が多く、子ども達にとっても貴重な場となります。ボランティアの方は、子ども達の間に入り一緒に勉強や遊びを楽しみました。特に年齢の近い高校生とは仲良しでした。子ども達の「先生や学生さんたちが優しかった」、「先生、学生の皆さん、ありがとうございました」との言葉が嬉しいです。（雲類鷲）

寺子屋を支え続けている人
望月隆行さん談

杉並区「堀之内・妙法寺」、NPO法人「すぎなみ子どもサポート」

寺子屋を開催して下さっている東京キワニスクラブ様は、まるで子どもを守る鬼子母神様の化身のように見えてなりません。参加してくれた子ども達が、心もお腹も満腹になり満面の笑みを浮かべながら帰る姿を見ると、寺子屋が未来永劫に続く事を願って止みません。

※NPO法人すぎなみ子どもサポートは寺子屋、子ども食堂の共催団体です。

コロナ禍明け、ドールの直接寄贈を再開

私たちは、新規寄贈先を始め、キワニスドールの寄贈先にはなるべく直接持参しようと努めてきています。コロナ禍で停止を余儀なくされましたが、去年は3箇所、今年は既に6月に東京慈恵医科大学附属病院、7月に相模原病院にドールをお持ちしました。

慈恵医大は従来からの寄贈先ですが、同医大がドール用の綿をご提供いただいて作る会を実施したセガサミーと子どものためのプロジェクトを実施していたため、キワニスと新たなご縁ができました。セガサミーが、自ら作ったドールを届けに行きたいと希望されたことから、三者での寄贈イベントが実現したのです。セガサミーのドールに対する深いご理解に感謝するとともに、このようなドールの「輪」が一層広がればと思います。

相模原病院は新規の寄贈先のため直接お届けしました。同病院の小児科外来、小児病棟には全国各地から小児アレルギー、骨折等々様々な病気、怪我を抱えた子どもたちがいます。しかし、治療について子ども用の説明ツールが不十分なため、他科の医師を通じて知ったドールをプレパレーション、インフォームドコンセント等の充実を目指す一つのツールとして取り入れたいと考えられたそうです。具体的な使い方は今後の課題とのことですが、全国から小児患者を受け入れている病院のドール活用は、ドールがより広く浸透していく良い切っ掛けになるだろうと感じさせる訪問でした。（久我）

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-3-2 米山ビル 7 階　TEL：03-5256-4567　MAIL：tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp

おいしいも楽しいもあふれる

春の子ども食堂 in 東京立正　2025.4.5

4月5日、「春の子ども食堂」を開催しました。再開して3年目、堀之内学園東京立正中学校・高等学校での子ども食堂が定着してきました。

今回は、東京イーストサイドホテル櫂会のカレーライス、サラダ、デザートに加えてパワーアップした工作・遊びコーナーが売りです。 さらに、東京立正の高校生が「桃の甘酒」を販売、新たな目玉もできました。食事後の工作・遊びコーナーでは、東京キワニス関連キークラブの生徒達が、リサイクルをテーマに段ボール、ペットボトル、割箸などを工夫して道具を手作りしてくれました。子ども達は各ゲームを大いに楽しみ、賞品がゲットできると大喜び。貰った子ども達は自慢げに嬉しそうでした。

参加者は244名と再開後初めて200名を超えて、忙しいながらも幸せなひとときでした。スタッフは、東京キワニス関係者、すぎなみ子どもサポート関係の方々、東京立正中高生／短大生、遊びコーナーの方々、計60名超。皆さん、各自の役割を楽しんでいる様子で、「子ども食堂を丸ごとみんなが楽しむ」これこそが醍醐味ではないでしょうか。いつもありがとうございます。感謝、感謝です。(雲類鷲)

2025.4.2

世界の友だちと水族館 子どもスマイル in サンシャイン

第5回「子どもスマイルイベントinサンシャインシティ」が4月2日開催されました。インド・ネパール・中国にルーツを持つ子どもを含む24名の子どもなど50名超が参加しました。サンシャイン水族館の計らいによる30分早い開館で、その間は貸し切りです。子どもたちは、普段目にしない幻想的な海の生き物の美しさに感銘を受け、また、大きな鯛の群れやエイ、鮫の水槽前で思わず立ち止まり、その迫力に驚きじっと見入っていました。

続いて、シナリオセンターによる3回目の「シナリオライティングの交流会」が開かれました。子どもたちは、紙と鉛筆、配られたシートを手に自分だけの物語をどのように紡ごうか一生懸命考え、自由な発想でアイデアを広げていました。

子どもたちからは「来てよかった」「たくさんのお友達とお話できてうれしかった」「また来年もぜひ参加したい」との声が聞かれました。

毎回ご協力いただいている「豊島子どもwakuwakuネットワーク」の栗林理事長、そしてサンシャインシティの皆さまに心より感謝申し上げます。(中井)

吉國会員の国際理事就任　2025.03.26

東京キワニスクラブ元会長の吉國眞一会員が、この度、国際キワニスの役員である国際理事に選出されました！アジアの未来を担う吉國会員からのメッセージと、現地の熱気をお伝えします。

吉國眞一会員よりメッセージ

「子どもたちよ大志を抱け、君たちは22世紀に向かっている」。
このメッセージを胸に、キワニスのアジア大洋地域の会合（ASPAC）年次総会（台湾高雄）での選挙で理事に当選いたしました。本年10月より、会員数16万人、関連団体含め45万人に達する奉仕団体の意思決定に携わることになります。日本の立場も踏まえ、キワニスの理念実現のため精一杯努力する所存ですので、よろしくお願いいたします。

［吉田浩二会員より現地報告］ 3月16日、キワニスASPAC地域高雄年次総会で国際理事選挙が行われました。東京クラブ元会長の吉國真一氏が日本地区推薦を受け立候補し、南フィリピン地区のアイク・アルタバス氏との事実上の一騎打ちを制し当選。吉國氏は各地区を訪問し、魅力的で誠実な選挙演説で支持を集め、特に台湾、ネパール、インドからの圧倒的な支持が勝因となりました。今後3年間、ASPAC地域の地位向上と子どもたちの未来に貢献することが期待されています。忘れてならないことは、奥様の熱心な応援も成功の一助となったことです。

広がるドールの「輪」

キワニスドールを作る会

東京キワニスのドール作りは2001年、会員とその家族から始まりました。やがて縁のある学校、企業などへと輪が広がっていき、今年は7月までに作る会を14回実施しています。昨秋、テレビで紹介された後は個人からの問い合わせも増えています。

コロナ感染時の停滞期を越えて、現在は以前同様に毎年定期的に開催して下さる会社や学校、ボランティアグループに加え、同じビル内の会社から交流会を通して知り賛同された会社、社会貢献していた病院でドールを知って会を企画して下さった会社でも開かれています。また、以前の勤務先で体験された転職者が勧めて下さったり、お母様の体験談に興味をもった娘さんが学校で開催し、文化祭でも発信して広げたいと張り切っていらっしゃる例など、いずれもドールの「病気の子どもたちのために」という理念が推進力となって輪が広がっていると感じます。だれもが心豊かになれるドールの「輪」がさらに広がるよう、努めてまいります。（遠藤）

東京キワニスの奨学金、例会に奨学生出席　2025.3.21

東京キワニス奨学金は主に会員などの寄付を基に児童養護施設卒の大学・専門学校生に返済不要型の奨学金を支給しております。また、奨学生との会食など交流にも努めております。

3月21日の例会に奨学生2名および各施設のスタッフをお招きしました。卓話は落語家桂小文治師匠に笑いと涙の人情噺を口演いただき、話芸の妙を楽しんでいただきました。その後、茶話会を催し、落語の話や現状、将来の夢などが話題となり、有意義なひと時となりました。今年から一人暮らしを始める新入生、国家資格取得に向けて勉強に励む3年生など奨学生のみなさまが元気で活き活きと人生を歩まれることを願っております。（矢崎）

児童養護施設の子ども達と老舗はちみつ店『菓子厨房』見学会　2025.6.27

昨夏、児童養護施設「若草寮」の児童を対象に「小学館見学会」を開催。今回はその第2弾として5月26日に、同施設の小学6年生と小学4年生の2名、そして引率の職員2名を、築地にある1931年創業の蜂蜜・メープルの老舗輸入加工販売会社「株式会社クインビーガーデン」様の菓子厨房へご案内。キワニスからは、若草寮担当の大久保と内丸が参加いたしました。

特別に拝見させていただいた厨房では、お菓子作りの手際に児童たちは大いに興味を示しておりました。中島シェフ自らのご説明にも、皆熱心に耳を傾ける姿が見受けられました。見学後のティータイムでは、中島シェフが手掛けたショートケーキを一同で味わい、舌鼓を打ちました。また、菓子販売の店内も拝見し、ショーケースに並べられた美しいケーキやお菓子に目を奪われている様子でした。

お菓子作りの現場見学に加え、ランチは築地のお寿司と寿司職人との触れ合い、さらに築地本願寺の壮大な建物も初めて目にし、子どもたちにとって実りの多い一日となりました 。

施設側からは「工場見学に加えて実際に働く方のお話が聞けて良かった」と感謝のメッセージが寄せられ、クインビーガーデン会長からも「社員に社会への貢献を意識させる良いきっかけとなった」とのお言葉をいただきました。今後もこのような機会を広げていきたいと考えております。

（大久保寧）

＼ クラブ内情報 ／

新年互例会

1月9日、『銀座クラシックホール』に会員が一堂に会し、本年も新年互例会が開催されました。
ゲストや会員家族も多く、新年に相応しい華やかな会です。ミュージカル「アニー」の主演を演じた武藤会員による熱唱で幕開け、鳥居会長の挨拶と乾杯の音頭で祝宴開始。その後も、キワニスの歌「子どもに夢を」を、荒木会員のピアノ伴奏で藤原会員夫人が熱唱するなど、会員手作りのプログラムにより和やかな雰囲気で進行し、集合写真撮影、山田副会長の中締め挨拶でお開きとなりました。(吉國)

ファミリーデー

7月18日、恒例のファミリーデーを銀座のクラシックホールで開催。ゲストで落語界の最長老、林家木久扇師匠の捧腹絶倒のお話の後、鳥居会長の挨拶、藤原元会長の乾杯音頭で歓談開始。さらに福引は木久扇師匠から落語、三浦会員（湊親方）から相撲、藤澤会員から囲碁と日本の伝統文化にまつわるグッズの他、多数の会員から賞品を提供頂き、ファミリーデーに相応しく藤澤会員夫妻の二人のお嬢様が引き手を務めて大いに盛り上がりました。最後に挨拶された山田副会長から多額のチャリティーの報告があり、和やかに閉会しました。(吉國)

例会場移転

当クラブが2021年より例会場として使用してきた「学士会館」は、昨年末閉館しました。このため、適正な利用料、清潔感、料理の質、格式を条件とする新会場探しが始まりました。しかし、そうした会場はそう多くはありません。そんな折、浮上したのが「日本外国特派員協会（FCCJ）」です。場所は交通至便で皇居を望む丸の内・二重橋前ビル。料理は確かな味わいで、国際色豊かな雰囲気。ほどなく新しい例会場として決定しました。グルメで名高い会員からも太鼓判をいただく料理に加え、会場前の廊下には、ここで会見を行った国内外の著名人のスナップが並び、独特な空気を醸し出しています。当初は戸惑いもありましたが、移転から8か月を経、会員も馴染んできたところです。(川原)

金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に学士会館で例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。最近の卓話の講師と演題は次の通り。

- **菅　正雄氏**（特定非営利活動法人KSKK）／幼児の能力はもっと上がる
- **野間　綾子氏**（ASPAC KKids・Builders Club・Aktion Club 委員会 委員長　埼玉クラブ会員）／SLPについて
- **渋澤　健氏**（シブサワ・アンド・カンパニー㈱代表取締役、コモンズ投信㈱取締役会長、㈱&Capital代表取締役CEO）／渋沢栄一の「論語と算盤」で未来を拓く
- **桂　小文治師匠**（落語家）／徂徠豆腐（そらいどうふ）
- **内藤　廣氏**（建築家）／「建築的思考」と「デザイン的思考」
- **猪村　真由氏**（一般社団法人 Child Play Lab. 代表理事）／～病気という経験を力に変えて～ 私たちが目指すところ
- **鈴木　健司会員**（東京クラブ会員）／アクティブシニア活躍の場を考える（リビングアカデミーとキワニス）
- **村山　昇作氏**（天体望遠鏡博物館 代表理事）／科学少年・少女を育む世界でただひとつの天体望遠鏡博物館
- **小寺　清氏**（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事、英国海外開発研究所上級客員 元財務省副財務官）／開発援助に携わった40年余から、21世紀の複合的な開発チャレンジ、途上国の多岐多様化を踏まえ、日本の立ち位置を考える
- ■**釜谷　正宏会員**（東京クラブ会員）／最強パパの教え

国際懇話会

【第102回　2025.2.10】
宮島　昭夫氏（前ポーランド駐箚特命全権大使）　ポーランド、ウクライナ戦争、そして 再びトランプ

【第103回　2025.4.21】
渡辺　博史氏（国際通貨研究所理事長）　今、世界では何が起こっているのか ―トランプ2.0の衝撃・笑劇

【第104回　2025.7.31】
山田　滝雄氏（外務省AZEC担当大使）　ベトナムから見た、グローバルサウスのトランプ政権への対応

新入会員紹介

藤原　恵美(ふじわら　えみ)	篠田　文治(しのだ　ぶんじ)	松井　洋治(まつい　ひろはる)
入会日　2025年2月7日	入会日　2025年5月9日	入会日　2025年8月1日

事務局便り

夏といえば「予算」の季節。9月末の臨時総会に向けて、今年度のまとめと来年度の計画づくりに奮闘しています。限られた中でやり繰りするのは簡単ではありませんが、子どもたちのための活動を大切にしながら、知恵を絞ります。ときには優しい担当者がちょっと厳しい役回りになることもありますが、それも未来への投資とご理解下さい。(川原)